

2025（令和7）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

*1行は約25文字（+句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

問一

都市は、文化的な生活、洗練した趣味、地縁・血縁的束縛からの解放、個人的な生の機会を得る、愛すべき場であるということ。

問二

今日の大都市では、自然を摂り込み、荒涼とした面を和らげ、自然の中にあった旧来の街とは異なり、自然を都市外に排除し、人間生活が自然と距てのある関係にあるということ。

問三

人間は、自然の中に包摂されて生きることで、その微妙な働きにより、自己が堅実に生きているという精神の正常さに対する揺るぎない信頼感を保ち、生活しているということ。

問四

全くの他人との間にも、地方都市では交感関係があるが、今日の大都市ではそうした他人との交流はない。ゆきずりの他人の表情すら大きな力を人の心に影響を及ぼし、疎外感も徐々に大きく影響するので、他者との関係は必要である（と筆者は考えている）。

問五

近代以前の都市では、人間は自然に包摂され、また、他人との感情的交流により、正常な精神生活を送りうるという関係にあった。都市化は、人間と自然との関係も、他人との関係も生活から排除することで、人間に不健全な影響を及ぼす。